

業務実績書

研究所 No50

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	情報システムの整備((1)-①)		
<p>【事業概要】 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。</p>			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 勝木言一郎
<p>【スタッフ】 綿田 稔、江村知子(以上、企画情報部)、崎部 剛(管理部LAN委員)、俵木 悟(無形文化財部LAN委員)、犬塚将英、加藤雅人(以上、保存修復科学センターLAN委員)、二神葉子(文化遺産国際協力センターLAN委員)</p>			
<p>【主な成果】 まずシステム管理については、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行い、現在のネットワーク環境の維持に努めた。またネットワーク環境の整備の一環として、国立文化財機構組織間VPNの接続の準備、居室内スイッチの更新、情報セキュリティ強化システムの導入を進め、情報基盤の整備と拡充を進めた。</p>			
<p>【年度実績概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム管理 所内におけるシステム管理については、システム管理者がシステム全体の日常的な運用をはじめ、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、グループウェアのユーザ管理、コンピュータ・ウィルス対策を行った。 2. ネットワーク環境の整備 現在のユーザ環境を維持しつつ、より効率的運用ができるように、国立文化財機構組織間VPNの接続の準備を進めるとともに、居室内スイッチの更新および情報セキュリティ強化システムの導入を実施した。 3. 国立文化財機構組織間における情報ネットワークの整備 国立文化財機構組織間における情報ネットワークの整備の一環として、VPN接続を実施するとともに、機構組織間のグループウェア運用に向けた準備を進めた。 			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6111

自己点検評価調書

研究所 No50

1. 定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	情報システムの整備についてはネットワーク環境の更新に伴い、セキュリティの強化及び高速化が図られた結果、適時性、効率性、継続性、正確性が向上したと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	情報システムの整備についてはセキュリティの強化及び高速化を図るに当たり、現在のユーザ環境を維持しつつ、より効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新を進めた。

【書式B】
(様式1)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 6112

業務実績書

研究所 No. 51

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実 (1)-①		
【事業概要】 コンピュータウィルスをはじめとする様々な脅威から研究所の情報を守り、正確な情報を発信して行くため、ネットワークのセキュリティを強化する。また、文化財情報の電子化によるデータベース及びホームページに掲載された情報の所内外への提供を推進するため、サーバ機器・ネットワークといった情報基盤システムの整備・充実を行う。			
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石 憲良
【スタッフ】 渡 勝弥 ほか 1名			
【主な成果】 USB ワームによるコンピュータウィルスの感染報告が1件あったが、それ以上の感染が拡大することもなく運用ができた。			
【年度実績概要】 ウィルス対策ソフトは、サーバ・PC とそれぞれ別の会社のものを使用し安全を確保して来たが、USB ワームの被害報告が一件あった。これは所外の感染したPC で使用したUSB フラッシュメモリを持ち込んだために感染した事が原因で、ファイアーウォール及びサーバで行なっている Web 用・メール用のウィルス対策は万全であったと云える。 ファイアーウォール及びメールサーバの更新を行う事により、メール利用環境を向上させた。			
【実績値】			
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 51

1. 定性的評価

観点	継続性	正確性				
判定	A	A				
備考 継続性：適切なソフトウェア及び機器の更新を行なった。 正確性：情報漏洩・改竄、ネットワークを介してのウィルス感染は皆無であった。						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	USB ワームによる被害報告が1件あったが、他への感染もなく、年度を通してみると十分なセキュリティが確保できたと考える。次年度以降もセキュリティに関する情報提供及び注意喚起に務めたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ネットワーク機器及びサーバについては安定した稼動を実現しているため、今後も安定した稼動の継続運用を行いたい。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化財に関する専門的アーカイブの拡充((1)-②)		
【事業概要】			
文化財関連の図書等の文字資料およびアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、一般利用者へのそれらの提供、そのためのデータベースや検索システムの構築・運用を行い、質の高い専門的アーカイブの拡充を図る。あわせて、上記アーカイブに必要不可欠である画像形成技術等の継続的な更新を行い、最先端の研究活動を支援することを目的とする。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長 津田徹英
【スタッフ】			
田中 淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子(以上、企画情報部)			
【主な成果】			
1) 公開用SQLデータ・画像データの更新・運用。 2) 画報社版『日本美術年鑑』のテキスト化 3) 劣化が進む貴重雑誌のCD-ROM化 4) 『鈴木敬旧蔵寄贈目録』の刊行			
【年度実績概要】			
1) 資料閲覧室の運営 ：文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、インターネット上での公開を目指して画報社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌のCD-ROM化をすすめるとともに、国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。また、昨年寄贈のなった鈴木敬旧蔵寄贈図書を整理し、『目録』を刊行した。			
2) 画像情報室 ：他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。06年度より継続の尾高鮮之助撮影フィルムについて文化遺産国際協力センターの協力を得て画像をデジタル化した。			
企画情報部にて作成・更新中の36種データベース ：所蔵和漢書(～08)、受入和漢書(09年度分)、所蔵洋書、所蔵簡易図書、売立目録、所蔵美術館博物館収蔵目録、和雑誌誌名、所蔵洋雑誌誌名、所蔵中国雑誌誌名、所蔵韓国雑誌誌名、所蔵和雑誌巻号(～02)、所蔵洋雑誌巻号(～05)、所蔵和雑誌巻号(03以降)、所蔵洋雑誌巻号(06以降)、所蔵中国雑誌巻号、所蔵韓国雑誌巻号、所蔵地方公共団体刊行報告書、所蔵香取秀真資料関係、展覧会(02まで)、展覧会(03以降)、近現代作家名、近現代展覧会開催情報(35以降)、写真原板、キャビネット写真、古美術文献目録(明治～65)、美術文献目録(35～06)、美術館博物館名、東京文化財研究所年表、美術研究総目次、撮影調査票、古美術展覧会開催情報(44以降)、物故者記事、美術懇話会、開所記念展覧会出品目録、美術家美術関係者情報、画廊情報			
インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中の15種データベース ：美術関係図書、伝統芸能関係図書、保存修復関係図書、売立目録、展覧会カタログ、和雑誌、写真原板、美術関係文献、『保存科学』所載文献、伝統芸能関係三雑誌所載文献、『美術研究』所載文献、近現代美術展覧会開催情報、伝統楽器情報、美術家美術関係者情報、画廊情報			
【実績値】			
通常フルカラー画像撮影件数 1,609 件、特殊画像撮影件数 929 件、デジタル画像撮影の全体に占める割合 100%、図書書受入数：和漢書 2,659 件、洋書 69 件、展覧会図録・報告書等 1,078 件、雑誌 1,661 件(受入総数 5,467 件)、36種の目録所在情報(作成件数 227,377 件、収録件数 944,659 件、公開件数 786,893 件)、インターネットで公開中の目録累計数 15 種、資料閲覧室の利用状況：公開日総数 140 日・利用者年間合計 1,139 人、昨年度の利用者数との対比 152 人増 目録刊行数①			
【備考】			
所内イントラによる目録の公開 http://www2.tobunken.go.jp ①『鈴木敬旧蔵寄贈図書目録』(2010.3)			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	文献資料受入件数	画像資料収集件数	データベース公開件数	閲覧者利用者数
判定	A	A	A	A
備考				

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的にも定量的にも目標値を満たし、閲覧室利用者の増加にみられるように国民の文化財理解にも資することができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	さらなる国内外の関連機関との調査・協議を進め、当研究所の文化財アーカイブの特色を生かした資料収集および公開を進めていきたい。

【書式B】
(様式1)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6122

業務実績書

研究所 No 53

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	東京文化財研究所七十五年史編纂事業((1)-②)		
【事業概要】 本事業は、東京文化財研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和5年6月に設立されてから平成17年で75周年を迎えたのを機に、当所の歴史を跡づけ、さらには独立行政法人国立文化財機構の一組織となる平成18年までの記録を残すことを目的として、資料収集及びそのデータ化を図り、所史を編集する。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長 田中 淳
【スタッフ】 中野照男(副所長)、高柳 明(管理部)、塩谷 純、山梨絵美子、中村節子、中村明子、井上さやか(以上、企画情報部)、高桑いづみ(無形文化遺産部)、佐野千絵、川野邊 渉(以上、保存修復科学センター)、岡田 健(文化遺産国際協力センター)			
【主な成果】 『東京文化財研究所七十五年史 本文編』を平成21年度に刊行することができた。			
【年度実績概要】 『東京文化財研究所七十五年史 本文編』を、以下の内容で平成21年度に刊行した。(B5版、総ページ607頁、平成21年12月25日発行、一部市販) I 沿革 II 管理運営 III 調査研究 1 企画情報部 2 無形文化遺産部 3 保存修復科学センター 4 文化遺産国際協力センター IV 現況 関連資料 (関連団体、追想、物故研究員等略歴、東京文化財研究所年表、機構変遷図、参考文献一覧)			
【実績値】 刊行数：1件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6122

自己点検評価調書

研究所 No 53

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『本文編』は、先に刊行した『東京文化財研究所七十五年史 資料編』（平成20年3月刊行）とあわせて、当研究所75年史とすることができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	『東京文化財研究所七十五年史 本文編』刊行をもって、当編纂事業は完了し、関係機関約400件に寄贈する予定である。

業務実績書

研究所 No 54

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化((1)-②)		
【事業概要】			
<p>無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。前中期計画(平成17年度終了)の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。</p>			
【担当部課】		【プロジェクト責任者】	
無形文化遺産部		無形文化遺産部長 宮田繁幸	
【スタッフ】			
高桑いづみ、飯島 満、俵木 悟、金子 健、綿貫 潤、星野厚子(以上、無形文化遺産部)			
【主な成果】			
<p>2006年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。所蔵画像資料のデジタル化についても、データベース作成の一環として、昨年度から本格的に始まった歌舞伎写真(2008年度寄贈・故梅村豊撮影)の整理を進めた。</p>			
【年度実績概要】			
<p>今年度、無形文化遺産部が推進した音声記録のデジタル化は、これまで収集実績が比較的少なかった諸芸(舌耕芸など)の分野、および1960年代の放送録音を中心に行った。後者については、放送局にも保存されていない録音が多いことから、その資料的な価値が近年再認識されつつあるもので、今年度はCD161枚を作成した。また、媒体変換を完了した音声資料から、インデックス付与済みCDを73枚作成した。</p> <p>所蔵画像資料のデジタル化事業の一環として実施しているデータベース作成の内、今年度は2008年度に寄贈を受けた歌舞伎写真の整理を中心に行い、昭和30年代のモノクロネガ1,085点について所蔵一覧を公表した。このほか、無形文化財関連の作成DVD603枚を登録した。</p>			
【実績値】			
作成資料 [CD] 234 枚		[DVD] 603 枚	
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	資料作成数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新たに寄贈された資料を中心に、劣化が懸念される貴重なアナログ資料の媒体変換を行うとともに、デジタル化しただけでは一般の利用には供しがたい音声資料へのインデックス付与も着実に実施している。また、専門の研究者も少なく、これまで収集実績の乏しかった分野に加え、資料的な価値が再認識されつつある放送録音の資料整理も併せて遂行している。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	事業は、従来水準を維持している。また、所蔵資料の内、写真資料については、将来的なデータベース公開へ向けて、所蔵一覧の作成を着実に進めている。以上により、事業の進捗状況を順調と判定した。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	国際資料室の整備((1)-③)		
<p>【事業概要】 本プロジェクトは、国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ、文化遺産国際協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに、国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に、資料のデータベース化を行い、利用者の便を図る。</p>			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員 二神葉子
<p>【スタッフ】 清水真一、岡田 健、山内和也、朽津信明、友田正彦(以上、文化遺産国際協力センター)</p>			
<p>【主な成果】 資料収集、データベース化：国内外で図書その他の資料を収集し、整理・分類して目録に登録し、データベース化した。</p>			
<p>【年度実績概要】</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料の収集とデータベース化 今年度はインド、インドネシア、中国、タイ、中央アジア諸国などの文化財に関する資料及び世界遺産、保存科学、文化財保護制度などに関する書籍 572 点(和漢書 214 点、洋書 358 点)、雑誌 228 点の資料を収集し、データベース化した。 2. 『国際資料室蔵書目録』の作成 2010(平成 22)年 3 月に、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した 572 点(和漢書 214 点、洋書 358 点)の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌 454 種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した </div> </div> <p>文化財保護法令に関する資料 (国際資料室)</p>			
<p>【実績値】 目録作成数 1 件(①)</p>			
<p>【備考】 ① 『国際資料室蔵書目録』 2010. 3</p>			

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	目録作成数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究業務に必要な資料を効率的に多数収集し、データベース化している。内容は外国の調査地で収集した資料や、文化財保護制度に関する外国語文献など独創的である。次年度以降も、本センターの他事業との連携をいっそう強化し、資料の収集を実施する。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	資料の収集は例年の実績を堅持し、順調に実施することができた。今後も、書籍に限定せず会議資料や機関のパンフレット、地図など、多様な資料の充実に努めたい。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実((1)-③)		
<p>【事業概要】 文化財に関する資料・図書を計画的に収集・整理し、外部の研究者および一般の利用者に積極的に公開・提供するための方策を検討し、実施する。</p>			
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石 憲良
<p>【スタッフ】 渡 勝弥 ほか 6名</p>			
<p>【主な成果】 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集・整理を行った。また、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。</p>			
<p>【年度実績概要】</p> <p>図書の整理： 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集・整理を行なった。また、国立情報学研究所が構築しているオンライン共同分担目録方式による全国規模の総合目録データベース(NACSIS-CAT)への新規及び遡及入力継続等、所外の利用者への情報提供も行なっている。</p> <p>利用者サービス： 図書資料室は一般公開施設として位置づけ、広く利用に供している。遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行なっている NACSIS-ILL を通じて文献複写サービスを行なっている。</p> <p>写真の登録： 図書資料以外では、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。</p>			
<p>【実績値】</p> <p>受入数： 購入図書 1,185 冊 寄贈図書 8,299 冊 雑誌 1,543 タイトル 写真 12,532 点</p> <p>利用者サービス： 一般利用者数 737 人 利用冊数 4,785 冊 来館者複写件数 931 件</p> <p>遠隔利用： 複写件数 755 件</p>			
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 56

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考						

2. 定量的評価

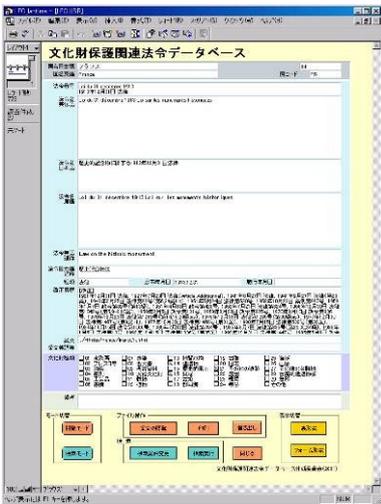
観点	資料の受入数	目録所在情報 作成件数	利用者数	複写件数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	書庫の狭隘化が深刻な状態となってきたので、資料の整理、書庫の増築計画等の検討を行い、研究者に対してより有意義で効果的な資料の収集に努めたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	利用者数、利用冊数、複写件数のいずれもが増加しており、極めて順調といえる。今後も研究者へのサービスを重視した運営を行っていきたい。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究((1)-④)		
<p>【事業概要】 世界各地の文化財およびその保存修復に関する情報を収集・整理し、調査研究に活用するとともに、関連分野の専門家に対して効果的に発信していくことを目的にデータベースを作成する また、文化遺産国際協力センターでこれまでに実施してきた事業の成果をデータベース化して公開する。 さらに、ウェブサイトを利用してセンターの事業について広報を行う。</p>			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員 二神葉子
<p>【スタッフ】 清水真一、岡田 健、山内和也、朽津信明、友田正彦(以上、文化遺産国際協力センター)、今井健一朗(客員研究員)</p>			
<p>【主な成果】 情報収集、データベース化：平成13年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。 情報の発信として出版物のPDF化を実施した。また、「各国の文化財保護法令シリーズ」としてカザフスタン、キルギス、トルクメニスタンの法令集およびフランス文化財法典(前編)を出版した。</p>			
<p>【年度実績概要】</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">  <p>法令データベースの表示例</p> </div> <div style="flex: 2;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の収集とデータベース化 平成13年度から収集を行っている世界各国の文化財保護に関連する法令について、引き続き法令を収集するとともに、日本の文化財保護法で用いられている分類を手がかりとして、昨年度に引き続き各国の法令が対象とする文化財による分類を行い、データベース化を実施している。 2. 情報の発信 これまでに和訳した世界各国の文化財保護に関連した法令の条文についてPDF化を行い、ウェブサイトに公開している。印刷物としては、まず、平成19年度に中央アジア5カ国を招いて「アジア文化遺産国際会議」を開催したカザフスタン、キルギス、トルクメニスタンの法令についてロシア語から和訳し、「各国の文化財保護法令シリーズ[6]-[8]」として印刷・出版した。また、文化財保護制度が整備され、当センターでも2003年以来比較研究を行っているフランスについて、「文化財法典」を和訳し、そのうち前半部分を「各国の文化財保護法令シリーズ[9-a1]」として出版した。さらに、昨年度出版した日本の文化財保護法の条文・判例および英訳冊子について、若干の改訂を行うとともに増刷した。なお、法令の翻訳にあたっては、あえて原語に忠実で説明的な直訳を心がけることで、日本語の類似の制度などとの混同を避ける工夫を図っている。 このほか、平成2年度～12年度の「アジア文化財保存セミナー」報告書をPDF化した。さらに、文化遺産国際協力センターのウェブサイト上で、最新の出版物の目次やプレスリリース等を掲載することで、研究成果を公開している。 </div> </div>			
<p>【実績値】 法令集作成数 4件(①～④)</p>			
<p>【備考】 ①～④ 各国の文化財保護法令シリーズ 6 カザフスタン、7 キルギス、8 トルクメニスタン、9-a1 フランス文化財法典(前編) 2010.3</p>			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6141

自己点検評価調書

研究所 No 57

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	独創性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	出版物作成数	データベース作成数			
判定	A	A			
備考 文化財保護に関する法令の収集・翻訳、さらに出版は他に例がない事業であり独創的であり、当該分野への貢献度を高く評価するものである。今年度も昨年度に引き続き法令集シリーズを出版した。また、研究成果の発信も速やかに実施している。これらの事業を来年度以降も引き続き行っていく。					

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修復および国際協力に関する資料の蓄積、および本センターの調査研究成果の発信を順調に実施することができた。 次年度以降も当該年度の水準を維持し、いっそうの資料収集・整理、成果発信を実施していきたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	5年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今後もさらに資料の収集・蓄積と発信を行っていきたいと考えている。

業務実績書

研究所 No. 58

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実((1)-(4))		
<p>【事業概要】 文化財情報の特性について具体的な資料の研究に基づいて検討を加え、それに最も適した電子化・情報化の方法を探り実際のデータベース入力を進める。</p>			
【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 肥塚隆保
<p>【スタッフ】 森本 晋 [企画調整部]</p>			
<p>【主な成果】 文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表することにより学界に寄与している。開発・改良を継続している各種データベースについて業務用とともに公開用についても充実を図った。</p>			
<p>【年度実績概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 文化財情報電子化の研究 遺跡・遺物情報電子化の実態調査として、遺跡台帳を電子的に整備し日常の業務に役立てるため GIS を活用している札幌市埋蔵文化財センターを訪問、実態調査を行った。遺跡・遺物情報電子化の資料調査として関連学会の中でも重要な Vast2009、リポジトリ研究会に参加するとともに、地理情報システム学会において研究成果の発表を行った。 文化財情報データベースの充実 遺跡、図書、写真、報告書抄録、航空写真等のデータベースについてデータの入力・更新を行った。奈文研所蔵資料の電子化に努め、特にガラス乾板画像、大判フィルム、航空写真画像のデジタル化を進めた。 遺跡 GIS 研究会の開催 第 14 回遺跡 GIS 研究会を 2009 年 11 月 20 日、奈文研管理部会議室で開催。発表 4 件。 			
<p>【実績値】 研究会開催数：1 回、参加者数：25 名。 研究発表件数：2 件(①、②) データベース件数平成21年度末()内は平成20年度末の値 全文 210,541(141,373)、木簡 149,376(147,550)、図書 239,630(269,826)、抄録 60,289(47,432)、写真 214,984(193,219)、遺跡 421,051(402,908)、航空写真 1,222,142(1,170,332) *図書データベースはデータ構造を変更したため見掛け上の件数が減少。</p>			
<p>【備考】 ①森本晋ほか「考古遺物の時間属性表現を目的とした地理情報標準準拠の編年参照系モデル」(『地理情報システム学会講演論文集』2009.10) ②森本晋「遺跡の記録」(第14回遺跡GIS研究会 2009.11)</p>			

自己点検評価調書

研究所 No 58

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考 奈文研独自のデータベースを整備して研究に資するとともに公開用データベースを充実させるという点において、広く国民が求める情報を継続的に提供している。また情報の正確さを担保しつつ電子化の研究を踏まえて質の向上に努めている点からも、上記諸観点を満たしている。						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価の各観点において十分な水準を維持しており総合的にAと判定した。文化財情報電子化の実態調査・資料収集をさらに充実させ、次年度においては新たなデータベース構築の検討を開始したい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各データベースにおいて、着実にデータの充実が進んでいる。新規データの入力のみならず、既存データの更新も行いながら、システムの改良も進めており、全体として当初計画通り進捗しているため、順調と判定した。

業務実績書

研究所 No. 59

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行((2)-①)		
【事業概要】			
『年報』『概要』『ニュース』など広報三誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を対外向けに情報発信することにある。またそれらはホームページにおいてもPDFファイル形式のデータとして配信されている。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 勝木言一郎
【スタッフ】			
田中 淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子、中村節子(以上、企画情報部)			
【主な成果】			
『年報』2008年度版、『概要』2009年度版、『東文研ニュース』37号-40号、『東文研ニュースダイジェスト』（『東文研ニュース』英語版）6号-7号をそれぞれ刊行し、研究所の情報発信に努めた。			
【年度実績概要】			
1. 『年報』2008年度版の刊行 2008年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。			
2. 『概要』2009年度版の刊行 2008年度版の構成は昨年度版にならい、組織、職員一覧、各部・センターの紹介、研修・助言・指導、大学院教育・公開講座、情報発信、刊行物、資料とした。またその割付は従来通り、日英2カ国語を併記し、図版を多用した。			
3. 『東文研ニュース』の刊行 『東文研ニュース』37号-40号の構成は従来通り、四半期ごとの活動報告、コラム、刊行物の案内、新人紹介、人事異動、案内などとした。また『東文研ニュースダイジェスト』（『東文研ニュース』英語版）を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。			
4. 子供向けパンフレットの刊行 2008年度に引き続き、子供向けパンフレット『東京文化財研究所ってどんなところ？』を刊行した。ただしその仕様は判型B5判、16ページ、中綴じ、その内容はテーマ別に改めた。			
【実績値】			
刊行物数	『東京文化財研究所年報』2008年度版		1,000部
	『東京文化財研究所概要』2009年度版		5,000部
	『東文研ニュース』第37号・第38号・第39号・第40号		各5,000部
	『東文研ニュースダイジェスト』（『東文研ニュース』英語版）第6号・第7号		各5,000部
	子供向けパンフレット		10,000部
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行物数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも誌面の内容を見直し、その充実を図った。またそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大した。こうした結果、広報企画事業の適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性が改善された。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも誌面の内容を見直し、その充実を図ったこと、そしてそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大したことから、東京文化財研究所における広報活動の事業展開が拡充された。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。

業務実績書

研究所 No. 60

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	『平成20年版日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行((2)-①)		
【事業概要】			
<p>各年の美術活動と美術研究、批評の状況を記録するために、昭和11年以来刊行を続けている『日本美術年鑑』を年1冊刊行するとともに、昭和7年1月以来、日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術等に関わる研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノート等を掲載する『美術研究』を年3冊刊行する。</p>			
【担当部課】		【プロジェクト責任者】	
企画情報部		近・現代視覚芸術研究室長 山梨絵美子	
【スタッフ】			
<p>田中 淳、勝木言一郎、津田徹英、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞、江村知子、土屋貴裕(以上、企画情報部)、相澤正彦、三上 豊、吉田千鶴子、森下正昭(以上、客員研究員)、中野照男(副所長)</p>			
【主な成果】			
<p>『日本美術年鑑』を年1冊、『美術研究』を年3冊刊行することを目的とし、今年度は『平成20年版 日本美術年鑑』及び、『美術研究』398～400号を刊行することができた。</p>			
【年度実績概要】			
<p>①『平成20年版 日本美術年鑑』 B5版 396ページ 2007(平成19)年美術界年史、美術展覧会(企画展、作家展、団体展)、美術文献目録(定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献(企画展、作家展))、物故者</p> <p>②『美術研究』398号 皿井 舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織(下)」 顔 娟英(塚本麿充訳)「日本画」の死-日本統治時代における美術発展の困難- 田中 淳「研究ノート 試論・「新しい女」と「風船を持つ女」-萬鉄五郎《風船を持つ女》の制作背景と表現-」 津田徹英「研究資料 脱活乾漆像 菩薩立像」 菊屋吉生・塩谷 純「研究資料 珊瑚会資料集(補遺その二)」</p> <p>③『美術研究』399号 土屋貴裕「鉄心斎文庫蔵「伊勢物語画帖」について」 塩谷 純「川端玉章の研究(二)」 江村知子「研究ノート 追憶の色-遊楽図の人物風俗描写に関する一考察-」 江村知子「展覧会評 朝鮮王朝の絵画と日本」</p> <p>④『美術研究』400号 雷 玉華・李 裕群・羅 進勇(濱田瑞美訳)「四川汶川出土の南朝仏教石造像」 綿田 稔「雲谷等顔筆「梅に鴉図」考-名嶋城御成書院から福岡城対面所へ-」 森下正昭「研究ノート コンテンポラリー・アートに関する美術館の新たな試み-英国テートギャラリーとインカのアーティスト・インタビュー・アーカイブ」 朴 昭炫「書評 吉田千鶴子『近代東アジア美術留学生の研究』-トランスナショナル・アーカイブを想像する-」</p>			
【実績値】			
<p>『日本美術年鑑』刊行数 1点 (①)600部発行、450件配布 『美術研究』刊行数 3点 (②～④)各400部発行、各306件配布</p>			
【備考】			
<p>①『平成20年版 日本美術年鑑』東京文化財研究所 2010.3 ②『美術研究』398号 東京文化財研究所 2009.8 ③『美術研究』399号 東京文化財研究所 2010.1 ④『美術研究』400号 東京文化財研究所 2010.3</p>			

自己点検評価調書

研究所 No 60

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行物件数	配布部数				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>広く文化財、美術史研究の情報を調査収集、データ化した『日本美術年鑑』は、計画通り刊行できた。編集作業の効率化を向上させるとともに、ウェブへのデータ公開との関連を次年度に改善したい。また、『美術研究』においては、従来からの基礎的研究の充実に加え、地域的あるいは時代的に従来の枠を超えた研究が登場するなど、誌面がより一層充実する傾向にあり、この点は評価できる。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	<p>中期計画にあげた実施状況は、順調である。『日本美術年鑑』については、編集作業の効率化とウェブへのデータ公開の迅速化にむけて、次年度は改善したい。</p>

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行((2)-①)		
【事業概要】			
無形文化遺産部スタッフによる業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』及び民俗文化財保護行政担当者、無形民俗文化財保存関係者、研究者の参加を得て開催する無形民俗文化財研究協議会の事例報告・総合討議を内容とする『無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行する。			
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長 宮田繁幸
【スタッフ】			
高桑いづみ、飯島 満、俵木 悟、金子 健(以上、無形文化遺産部)、星野 紘、福岡裕子、森下愛子、服部比呂美(以上、客員研究員)、七海由美子、松山直子(特別研究員)			
【主な成果】			
1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第4号の刊行。 2) 平成21年11月19日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第4回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。			
【年度実績概要】			
○『無形文化遺産研究報告』第4号を以下の内容で刊行した。 「実施段階に入った無形文化遺産保護条約」宮田繁幸、「アジア太平洋地域の無形文化遺産—代表一覧表記載案件の分類と専門機関の役割—」松山直子、「無形文化遺産保護の挑戦—日本国内およびアジア太平洋諸国を訪れて—」星野 紘、「近代の京焼から「伝統」を考える—近代京都の陶芸家における古典学習について—」森下愛子、「染色技術の記録・保護への取り組み—製織・製糸・縫製を中心に—」深津裕子、「大里七夕踊にみる民俗芸能の伝承組織の動態」俵木 悟、「八朔の馬節供 西讃地方の団子馬製作を中心に」服部比呂美、「[資料紹介] 梅村豊撮影歌舞伎写真(二)」金子 健、「国立音楽大学附属図書館寄贈竹内道敬旧蔵音盤目録(4)」飯島 満 ○「無形の民俗の伝承と子どもの関わり」をテーマとした『第4回無形民俗文化財研究協議会報告書』を以下の内容で刊行した。 I. 序にかえて、II. 趣旨説明、III. 報告：1 報告「大磯の七夕行事の継承の取り組み」佐川和裕(大磯町郷土資料館学芸員)、報告：2「大鹿歌舞伎の継承の取り組み」北村尚幸(大鹿村教育委員会社会教育係長)、報告：3「伝統文化こども教室事業の現状と課題について」松本保之(財団法人伝統文化活性化国民協会事務局次長)、報告：4「直根小学校における民俗芸能への取り組み」金 利紀(由利本荘市立直根小学校長)、報告：5「餅・団子を通じた様々な「発見」～東北歴史博物館が小学生と行った民俗調査から～」小谷竜介(宮城県教育庁文化財保護課技術主査)、IV. 総合討議、V. 参考資料、VI. アンケート結果、VII. あとがき			
【実績値】			
発行数 2件 発行部数 1,250部(『無形文化遺産研究報告』750部、『無形民俗文化財研究協議会報告書』500部)			
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 61

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>『無形文化遺産研究報告』: 今回は、無形文化遺産をめぐる国際的状況、無形文化財の芸能、工芸技術、無形民俗文化財の民俗行事、民俗技術の論考や報告、資料紹介等、幅広い内容の報告書となった。本誌は、将来の無形文化遺産全般の保護行政や研究に資する報告書となることをめざしているが、その目的に適うものとなっている。</p> <p>『無形民俗文化財研究協議会報告書』: 当研究所でおこなった無形民俗文化財に関する研究協議会の報告書で、会場での研究報告や総合討議の様相を掲載したものである。今後もこれまでの研究を踏まえながら、協議会をおこない、報告書の刊行を見る予定である。</p> <p>以上を総合的に判断して、Aと判定した。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	<p>両誌ともに、年度当初の計画通り、年1回の刊行がなされており、目的を順調に達成した。今後もこのペースの維持をめざす。そして『無形文化遺産研究報告』は、内外の無形文化遺産保護行政担当者や研究者の要望を視野に入れた研究誌として、内容の充実を図ることとする。『無形文化財研究協議会報告書』は、今後も協議会の内容を掲載するものとして、刊行を続けてゆく。</p>

業務実績書

研究所 No. 62

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	『保存科学』49号の出版 (2)-①		
【事業概要】			
<p>保存修復科学センター・文化遺産国際協力センターで行われた文化財の保存・修復に関する調査・研究に基づく資料の作成・公開を目的とし、年1回研究論文集『保存科学』を刊行する。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置報告などを掲載する。また、より一層の研究成果の公開につとめるため、『保存科学』掲載論文の電子化を行い、インターネット上での公開を行う。</p>			
【担当部課】		保存修復科学センター	
【プロジェクト責任者】		保存修復科学センター長 石崎武志	
【スタッフ】			
川野邊 渉(保存修復科学センター)、清水真一(文化遺産国際協力センター)、犬塚将英(保存修復科学センター)(編集担当)			
【主な成果】			
<p>29件の投稿を受け、外部査読者2名を含む編集委員会で査読を行い、報文9本、報告20本、合計29本の掲載を決定した。本誌の体裁は変更せず、総ページ数 287 ページ、600部印刷、関係諸機関に約580部配布した。</p>			
【年度実績概要】			
<p>保存修復科学センター長、副センター長、文化遺産国際協力センター長、東京国立博物館文化財保存修復課長・神庭信幸氏、東京藝術大学大学院美術研究科教授・稲葉政満氏の5名からなる編集委員会によって編集を行った。平成21年度は、29件の研究論文・報告を掲載した『保存科学』第49号を発行した。その中で9件の研究論文の題目を以下に記す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化財公開施設等におけるATP拭き取り検査の活用について 2. 国宝伴大納言絵巻の蛍光X線分析 3. 初期の日光社寺建造物に使用された赤色塗装材料に関する調査 4. 土質遺構露出展示保存のための基礎的研究 -水ポテンシャル制御による遺構安定化の試み- 5. 高松塚古墳石室内・取合部および養生等で使用された樹脂等材料のかび抵抗性試験 6. 過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析(2) -墳丘部表面の植生等の変化が石室内温湿度変動に与える影響- 7. 過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析(3) -吸放熱パネルの送水温度および入室が石室内温湿度変動に与える影響- 8. 高松塚古墳墳丘部の動的解析 9. 敦煌莫高窟第285窟における壁画の劣化への光環境 <p>その他、20件の研究報告を掲載した。</p>			
【実績値】			
印刷部数 600部			
配布部数 約580部			
本誌体裁B5、総ページ数 287 ページ			
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 62

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
<p>備考 掲載されている論文は文化財の保存・修復に関する適時性の高い諸問題をテーマとしており、そのため今後の発展性が大いに期待できる内容となっている。また、掲載されている論文は査読審査を経ているため、独創性と正確性が高い。</p>						

2. 定量的評価

観点	印刷部数	掲載論文数	印刷頁数			
判定	A	A	A			
<p>備考 文化財保存・修復における諸問題や最新の研究成果を把握するために、査読審査を経ることによって、十分な掲載論文数、印刷ページ数の論文集ができあがった。また、印刷部数に関しては適宜見直しを行い、さらにインターネット上での公開も併行して行っている。</p>						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	適時性、発展性、独創性、正確性の高い論文・研究情報が研究論文集としてまとめられ、そしてそれらが刊行物やインターネット上での公開を通じて、国内外の研究者にとって重要な情報源として確立している。しかし、印刷ページ数は年々増加の傾向にあり、刊行する方法に関しては、今後も適宜検討を行う必要がある。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	確実に刊行を重ねており、今号で49号を数えている。国内研究情報を集約した基本の研究雑誌として、外部からの評価は高い。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書の刊行((2)-①)		
【事業概要】			
<p>第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は「“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために」をテーマに、企画情報部の担当で開催した。近年の複製技術やデジタル技術の目覚ましい革新など、アーカイブを取り巻く環境は激変している。そこで文化財とは何かという原点に立ち返りつつ、“オリジナル”という概念を軸として、文化財アーカイブはどうあるべきかという問題意識の共有化を図る国際研究集会を企画した。本プロジェクトはその報告書を刊行する。</p>			
【担当部課】		企画情報部	【プロジェクト責任者】 企画情報部長 田中 淳
【スタッフ】			
<p>中野照男(副所長)、勝木言一郎、山梨絵美子、津田徹英、綿田 稔、塩谷 純、土屋貴裕、皿井 舞、江村知子(以上、企画情報部)、相澤正彦、森下正昭(以上、客員研究員)</p>			
【主な成果】			
<p>2008(平成20)年12月6~8日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために」の報告書を刊行した。</p>			
【年度実績概要】			
<p>報告書に収録したテキストは以下の通り。 〈基調講演1〉モノより思い出、思い出よりモノ 塩谷 純 <u>セッション1：モノ／“オリジナル”と対峙する</u> 二点の中国古書蹟における光学的調査—懷素「自叙帖」と孫 過庭「書譜」何 傳馨(國立故宮博物院) 室町時代狩野派扇面画の“オリジナル”—宋画との関連 マシュー・P・マッケルウェイ(コロンビア大学) 肉筆浮世絵と浮世絵版画—浮世絵研究者にとってのオリジナル 浅野秀剛(大和文華館) 写真—オリジナルという認識の共有 岡塚章子(江戸東京博物館) 現代美術とオリジナル 松本 透(東京国立近代美術館) 討議1 司会：相澤正彦(成城大学)・山梨絵美子 <u>セッション2：モノの彼方の“オリジナル”</u> おじいさんの斧—日本文化史におけるオーセンティシティと再生—宇治橋を例に タイモン・スクリーチ(ロンドン大学 SOAS) 『諸説不同記』と「現図」胎蔵曼荼羅 津田徹英 燈明寺「六」観音像をたどる シェリー・ファウラー(カンザス大学) 古典芸能の伝承と変遷—人形浄瑠璃文楽の場合 飯島 満 雪舟というオリジナルな存在—作家論の功罪 綿田 稔 仏像の修理・修復—サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐる 皿井 舞 更新のオーセンティシティ—木造建築におけるオリジナル 清水重敦(奈良文化財研究所) 討議2 司会：勝木言一郎・森下正昭 〈基調講演2〉オリジナルとその保存—文化財アーカイブの可能性と限界 加藤哲弘(関西学院大学) <u>セッション3：“オリジナル”を伝えること</u> オリジナルに戻る—金剛經の保存 マーク・バーナード(大英図書館) 鼎談 敦煌文書とアーカイブ 赤尾栄慶(京都国立博物館)・マーク・バーナード・中野照男 サー・ロバート・ウィット・ライブラリーと矢代幸雄の美術研究所構想 山梨絵美子 遊興文化の残映—彦根屏風の光学調査と情報化 江村知子 屋外彫刻調査保存研究会の活動について 田中修二(大分大学) 総合討議 司会：佐野みどり(学習院大学)・田中 淳</p>			
【実績値】			
報告書刊行件数 1件(①)			
【備考】			
<p>①『第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 “オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために』2010.3 800部 なお同報告書より英語部分を除いたものを『“オリジナル”の行方—文化財を伝えるために』のタイトルで平凡社より市販した。</p>			

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	昨年度開催した国際研究集会「“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために」の報告書を編集。日本・東洋の美術を中心としながら、西洋の美学や現代美術、無形文化財をも視野に入れ、とくに文化財アーカイブの立場から“オリジナル”をとらえようとする意欲的な内容となった。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	いずれも高い水準で実施でき、順調と判断した。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行((2)-①)		
【事業概要】	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行する。		
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】			
【主な成果】	紀要等2点、ニュース2種8点、研究報告書・研究論文集11点、史料等4点、図録・カタログ6点、リーフレット4点、パンフレット5種16点、合計51点を刊行し、研究成果を順調に刊行できた。		
【年度実績概要】	<p>(紀要等) 『奈良文化財研究所紀要2009』2009.7、3,300部 『奈良文化財研究所概要2009』2009.7、3,500部</p> <p>(ニュース) 『奈文研ニュース』NO.33、2009.6、3,000部、『奈文研ニュース』NO.34、2009.9、3,000部 『奈文研ニュース』NO.35、2009.12、3,000部『奈文研ニュース』NO.36、2010.3、3,000部 『埋蔵文化財ニュース』NO.138(鳥類・両生類・爬虫類標本リスト)、2009.12、2,500部、 『埋蔵文化財ニュース』NO.139(遺跡測量)、2010.3、2,500部、 『埋蔵文化財ニュース』NO.140(奈良文化財研究所の国際研究活動)、2010.3、2,500部、 『埋蔵文化財ニュース』NO.141(2008年度埋蔵文化財関係統計資料)、2010.3、2,500部</p> <p>(研究報告書、研究論文集等) 『古代瓦研究Ⅳ』(古代瓦研究会シンポジウム記録)2009.11、900部 『古代瓦研究Ⅴ』(古代瓦研究会シンポジウム記録)2010.3、900部 『文化的景観とは何か?—その輪郭と多様性をめぐって—』(奈文研研究報告第1冊)2009.12、1,000部 『埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題』(平成20年度遺跡整備・保存修復科学合同研究会報告書)2009.12、1,500部 『平安時代庭園に関する研究3—平成20年度古代庭園研究会報告書—』2009.11、300部 『東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会報告書』2009.11、(和文)500部(英文)1,000部 『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究 2 木部』(奈文研学報第81冊)2010.3、700部 『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究 3 彩色・金具』(奈文研学報第82冊)2010.3、700部 『河南省黄冶窯発掘調査概報』(奈文研研究報告第2冊)2010.3、600部 『研究論集XVI 鉄製武器の流通と初期国家形成』(奈文研学報第83冊)2010.3、600部</p> <p>(史料等) 『平城宮木簡7』(奈文研史料第85冊)2010.3、(本文編)600部、(図版編)600部 『重要文化財建造物現状変更説明1958—1961』2010.3、(本文編)500部、(図版編)500部</p> <p>(図録、カタログ等) 『キトラ古墳壁画四神—青龍白虎—』(飛鳥資料館図録第50冊)2009.4、5,000部 『北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見』(飛鳥資料館図録第51冊)2009.10、4,000部 『冬期企画展 飛鳥の考古学2009』(飛鳥資料館カタログ第21冊)2009.2、2,000部 『東アジア金属工芸史の研究12』(飛鳥資料館研究図録第12冊)2009.3、600部 『地下の正倉院展—二条大路木簡の世界—』2009.10、10,000部 『平城宮跡図録』2010.3、3,000部</p> <p>(リーフレット) 『アンコール遺跡群西トップ寺院 遺跡保全プロジェクト』2009.6、1,000部/2010.2、1,000部 『甘樫丘東麓遺跡』(飛鳥藤原第157次調査現地見学会資料)2009.6、2,000部 『藤原宮大極殿院回廊の調査』(飛鳥藤原第160次調査現地説明会資料)2009.11、2,000部</p> <p>(パンフレット) 『平城宮跡』2010.3(日本語版)10,000部、(英語版・中国語版・韓国語版)各1,000部 『朱雀門』2010.3(日本語版)10,000部、(英語版・中国語版・韓国語版)各1,000部 『東院庭園』2010.3(日本語版)3,000部、(英語版)1,000部 『第一次大極殿』2010.3(日本語版)1,000部、(英語版)1,000部 『平城宮跡ガイド』2010.3(日本語版)80,000部、(英語版・中国語版・韓国語版)各3,000部</p>		
【実績値】	刊行物数：51点、新聞・雑誌等への寄稿および資料提供数：973件		
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 64

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：調査研究の実施状況、遷都 1300 年祭に合わせた各種パンフレットの新規作成および改訂 継続性：紀要、概要、ニュース等の継続発行 正確性：調査報告書のデータ						

2. 定量的評価

観点	紀要等刊行数	研究報告書、 研究論文集刊 行数	図録、史料等 の刊行数	リーフレッ ト、パンフレ ットの刊行数	新聞、雑誌等 への寄稿およ び情報提供数	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、研究報告書・研究論文集 11 点、史料等 4 点、図録・カタログ 6 点、リーフレット 4 点、パンフレット 5 種 16 点、合計 51 点を刊行し、研究成果を順調に刊行できたことで A と判定した。特に本年度は、平城遷都 1300 年祭による宮跡来訪者への案内・解説の充実を目的に、平城宮跡の図録や各種パンフレットの大幅な改訂および新規作成を行った。次年度も、本年度にまして、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を、専門家だけでなく、一般向けにも分かりやすい形での刊行に努めたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	紀要、ニュース、研究報告書、研究論文集、史料、図録、リーフレット、パンフレットなどの刊行は順調に実施している。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	第33回文化財の保存および修復に関する国際研究集会((2)-②)		
<p>【事業概要】 第33回の本研究集会においては、日本絵画修復の伝統的な技術・材料を、科学的側面から確認するとともに、修復における現在における新たな試みを検討し、さらには世界各国における日本画修復の現状を確認することを第一の目的として行う。さらに、この会で得られた知識を広く世界に還元する。</p>			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター副センター長 川野邊 渉
<p>【スタッフ】 川野邊 渉、中山俊介、北野信彦、加藤雅人、早川典子、森井順之(以上、保存修復科学センター)</p>			
<p>【主な成果】 2009年11月12日～14日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した。14講演と総合討議を行い、様々な分野から総数で356名の参加があった。</p>			
<p>【年度実績概要】</p> <p>12日 鬼原俊枝(文化庁・日本)日本における絵画修理の理念 川野邊 渉(東京文化財研究所・日本)日本絵画修復における自然科学の役割 杉山恵助、ジョアンナ・M・コセック(大英博物館・英国)大英博物館における日本絵画の保存修復 ジェニファー・ペリー(クリーブランド美術館・米国)クリーブランド美術館における東洋絵画修復 中山俊介(東京文化財研究所・日本)東京文化財研究所事業「在外日本古美術品の修復協力プロジェクト」における海外工房での修復</p> <p>13日 大川昭典(和紙技術研究者・日本)材料からみた和紙の歴史的变化 稲葉政満(東京芸術大学・日本)和紙の保存性 加藤雅人(東京文化財研究所・日本)補紙・補絹の動向 早川典子(東京文化財研究所・日本)絵画修復に使われる糊と布海苔 森田恒之(愛知県立芸術大学客員教授、国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授・日本)日本の膠 田畔徳一・山本記子(国宝修理装師連盟・日本)、川野邊渉・加藤雅人・早川典子(東京文化財研究所・日本)修復における新たな試み・新しい材料と新しい技術—科学の裏づけと技術者の選択—</p> <p>14日 ブライス・マッカーシー(フリーア美術館とアーサー M サックラー ギャラリー・米国)フリーア美術館における科学的研究と絵画の保存修復 ジャッキー・エルガー(ボストン美術館・米国)ボストン美術館における日本絵画コレクションの保存修復と科学分析 本田光子、藤田励夫、志賀智史(九州国立博物館・日本)伝統を継承する先端施設の取り組み—九州国立博物館の場合— 総合討論会</p>			
<p>【実績値】 海外からの招講演者 4名 国内からの講演者 13名 参加者 356名 アンケートによる参加者の満足度 99%(回収率56%)</p>			
<p>【備考】 印刷物：ファーストサーキュラー、セカンドサーキュラー各3,000部、予稿集400部、ポスター</p>			

自己点検評価調書

研究所 No 65

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2. 定量的評価

観点	開催回数	印刷部数				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本絵画は広く海外でも所蔵されている一方、東洋絵画の修復を専門にしている技術者は少なく、そのため関心が高い。また、国内においても、修復技術・材料に特化した講演会は少なく、その点で注目されている。結果、参加者数も多く、満足度も高かった。しかし、予想以上の参加申し込みがあり、会場の席数(運営上必要な数を除いて370名程度)の制限からお断りをせざるをえなかった点は、改善する余地がある。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	順調である。次年度は報告書を刊行する予定である。

業務実績書

研究所 No 66

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	平成 21 年度オープンレクチャー((2)-②)		
<p>【事業概要】 企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。</p>			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長 田中 淳
<p>【スタッフ】 山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞、江村知子、土屋貴裕(以上、企画情報部)</p>			
<p>【主な成果】 平成 21 年度に第 43 回企画情報部オープンレクチャー「人とモノの力学」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した(参加者数：258 人、アンケートによる満足度：93%(回収率：86%)。)</p>			
<p>【年度実績概要】 企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に開催しており、本年で 43 回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、日間連続で開講し、聴講者の便宜を図るように努めた。今回も昨年度に引き続き「人とモノの力学」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても企画されている。 今回は 2 日間でのべ 258 人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、221 人から回答を得た(回収率：86%)。結果は、「たいへん満足した」102 人、「おおむね満足した」90 人、「普通だった」13 人、「不満が残った」2 人、回答者の 93%が満足感を得たことがわかった。 第 1 日目：2009 年 10 月 2 日(金)午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室 「異国をこしらえる-「玄奘三蔵絵」をめぐって-」土屋貴裕(東京文化財研究所) 「宋朝からみた日本僧-仏法・国土と文物交流の世界-」塚本麿充(大和文華館) 第 2 日目：2009 年 10 月 3 日(土)午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室 「大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査」中野照男(東京文化財研究所) 「チベット宗教世界と大谷探検隊」白須浄真(広島大学)</p>			
<p>【実績値】 参加者数：258 人 満足度：93%(回収率 86%)</p>			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6222

自己点検評価調書

研究所 No 66

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、時宜に適応しながら、公表することができ、その参加者数も満足度も目標値を満たしたので、Aと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り、進捗した。次年度以降も文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、公開講演というかたちで開催していきたい。

業務実績書

研究所 No. 67

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	公開講演会、現地説明会等の開催((2)-(2))		
【事業概要】文化財に関する調査・研究に基づく成果について、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。			
【担当部課】	管理部文化財情報課、 管理部業務課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石憲良 業務課長事務取扱 多昭彦
【スタッフ】	永井あつ子、桑原隆佳、今西康益、飯田信男、石田義則、[以上、管理部]		
【主な成果】研究所が行う調査研究を適時適切に国民に公表するため、公開講演会を2回、飛鳥資料館特別講演会を2回、計4回の公開講演会等を開催した。また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計6回実施した。参加延べ人数は、公開講演会等が1,018名、現地説明会等が7,184名に上り、開催回数、参加者数ともに従来水準を維持し順調に事業が実施できた。			
【年度実績概要】			
I. 公開講演会等			
1. 第104回公開講演会 H21/5/23(土) 参加者数 200人 場所 平城宮跡資料館講堂			
演題・講演者「第一次大極殿院広場の復原」		奈良文化財研究所長	田辺 征夫
「古代火葬墓の世界」		都城発掘調査部	小田 裕樹
「高床式建物を探る－出土建築部材と雲南の実際－」		都城発掘調査部	黒坂 貴裕
アンケート結果= 回収数 161人・回収率 80.5%満足度 A=158人(98.1%)/B=2人(1.3%)/C=1人(0.6%)			
2. 第105回公開講演会 H21/11/28(土) 参加者数 633人 場所 なら100年会館大ホール			
演題・講演者「これからの平城宮跡－遷都1300年を迎えて－」		奈良文化財研究所長	田辺 征夫
「世界都市長安城の風景－平城京の原型－」		都城発掘調査部	今井 晃樹
「平城京遷都の歴史的背景－日本古代都城の出現と変質」		都城発掘調査部長	井上 和人
アンケート結果= 回収数 341人・回収率 53.9%満足度 A=339人(99.4%)/B=2人(0.6%)/C=0人(0%)			
3. 飛鳥資料館特別講演会「甦るクメール文明」－世界文化遺産アンコール遺跡群－ H21/8/2(日) 参加者数 58人			
演題・講演者「甦るクメール文明」		元駐カンボジア日本国特命全権大使 (財)地域地盤環境研究所専務理事 写真家	今川 幸雄 岩崎 好規 BAKU 斉藤
4. 飛鳥資料館特別講演会 H21/10/17(土) 参加者数 127人			
演題・講演者「北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見」		元奈良文化財研究所長 遼寧省文物考古研究所長	町田 章 田 立坤
アンケート結果= 回収数 46人・回収率 36.2%満足度 A=46人(100%)/B=0人(0%)/C=0人(0%)			
II. 発掘調査現地説明会等			
1. 平城第454次(中央区第1次大極殿院内庭部)発掘調査現地説明会 H21/6/20(土)			
参加者数	755人	報告者 大林 潤	調査面積 約1,558㎡
アンケート結果=回収数 245人・回収率 32.5% 満足度 A=132人(53.9%)/B=111人(45.3%)/C=2人(0.8%)			
2. 飛鳥藤原第157次(甘樫丘東麓遺跡)発掘調査現地見学会 H21/6/21(日)			
参加者数	1,134人		調査面積 1,150㎡
3. 平城第458次(興福寺南大門)発掘調査現地見学会 H21/9/27(日)			
参加者数	2,265人	報告者 森川 実	調査面積 約830㎡
4. 飛鳥藤原第160次(藤原宮大極殿院回廊)発掘調査現地説明会 H21/11/29(日)			
参加者数	945人	報告者 高橋 知奈津	調査面積 約1,425㎡
アンケート結果=回収数 241人・回収率 25.5% 満足度 A=163人(67.6%)/B=78人(32.4%)/C=0人(0.0%)			
5. 平城第446次(平城宮東院地区西北部)発掘調査現地説明会 H22/2/20(土)			
参加者数	840人	報告者 鈴木智大・国武貞克	調査面積 1,505㎡
アンケート結果=回収数 182人・回収率 22.0% 満足度 A=120人(65.9%)/B=60人(33.0%)/C=2人(1.1%)			
6. 飛鳥藤原第161次(甘樫丘東麓遺跡)発掘調査現地見学会 H22/3/20(土)			
参加者数	1,245人		調査面積 846㎡
【実績値】			
I 公開講演会等 年4回：参加者延数 1,018人 回収数 548人・回収率 57.1%：A大変満足である：543人(99.1%)/Bおおむね満足である：4人(0.7%)/Cあまり満足でない：1人(0.2%)			
II 発掘調査現地説明会等 年6回：参加者延数 7,184人 内アンケート実施回数 3回：参加者延数 2,540人 回収 668人 回収率 26.0%：A大変満足である：415人(62.1%)/Bおおむね満足である：249人(37.3%)/Cあまり満足でない：4人(0.6%)			
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 67

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：発掘調査等研究成果の適時適切な公開 独創性：公開内容の新規性及び卓越性 発展性：遺跡等の重要性の確認と社会への影響性 継続性：研究成果の継続的な社会還元						

2. 定量的評価

観点	開催回数	参加者数	参加者満足度			
判定	A	A	A			
備考 開催回数 公開講演会：年4回、現地説明会等：年6回 参加者数 公開講演会：年延350人以上、現地説明会：年延3,000人以上 参加者満足度 現地説明会：80%以上						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	公開講演会については、年4回実施し、発掘調査現地説明会等については、6回実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対し行ったアンケートでは、公開講演会で99%、発掘調査現地説明会等で99%の「大変満足である」、「おおむね満足である」という結果を得ている。 これらの結果を総合的に判断して、Aと認めたものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	公開講演会、現地説明会等の開催事業は、開催回数、参加者数ともに、従来の水準を維持し、順調に実施できたと考える。 今後もこのペースを維持しつつ、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握等に力を注ぎ、さらに参加者数の増加と満足度の向上に努めたい。

業務実績書

研究所 No 68

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	ホームページの運用((2)-③)		
<p>【事業概要】 研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。</p>			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 勝木言一郎
<p>【スタッフ】 綿田 稔、江村知子、中村明子(以上、企画情報部)、崎部 剛(管理部LAN委員)、俵木 悟(無形文化財部LAN委員)、犬塚将英、加藤雅人(以上、保存修復科学センターLAN委員)、二神葉子(文化遺産国際協力センターLAN委員)</p>			
<p>【主な成果】 キッズページ(日本語版・英語版)の新設、携帯サイトの新設など、ホームページの内容の充実を図り、研究所がもつ情報発信機能の向上に努めた。</p>			
<p>【年度実績概要】 1. ホームページの運用 東京文化財研究所のホームページは、研究所における情報発信機能の一翼を担う重要なメディアであり、また文化財研究のデジタル・アーカイブとしての役割を果たす。とくに平成21年度はキッズページ(日本語版・英語版)の新設、文化財情報ナビの開設、携帯サイトの新設、動画コンテンツの増設、黒田記念館ページ(フランス語版)の新設など、ホームページの内容の充実と利便を図った。またデジタル・アーカイブのより一層の充実を充実を目指して、名古屋城本丸御殿古写真などのWeb公開の準備を進めた。 平成21年度のホームページアクセス件数は1,417,203件であり、昨年度に比べ、11,925件増加した。</p>			
<p>【実績値】 ホームページアクセス件数：1,417,203件</p>			
<p>【備考】</p>			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	ホームページ アクセス件数				
判定	S				
備考					

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページの運用については、ホームページアクセス件数の高さから、適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性の向上を裏付ける結果だと判断した。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ホームページの運用については、ホームページが研究所の広報活動の一翼を担うとともに、かつ文化財研究のデジタル・アーカイブとして多角的な情報発信を行ってきたことがホームページアクセス件数からも裏付けられた。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。

業務実績書

研究所 No 69

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	ホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保((2)―③)		
<p>【事業概要】 研究所の事業・研究成果をはじめ、施設・案内など様々な広報をしているホームページであり、常に拡充を図っている。社会への広報の目安となるアクセス件数を把握し、より一層の情報提供に務める。</p>			
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石 憲良
<p>【スタッフ】 渡 勝弥 ほか 1名</p>			
<p>【主な成果】 奈良文化財研究所が公開する『木簡画像データベース』と東京大学史料編纂所が公開する『電子くずし字典データベース』を連携して両データベースの一括検索を可能とした。 また、研究所のホームページをより充実させるために、各部・室における事業内容、研究発表等を紹介するページの作成を開始した。</p>			
<p>【年度実績概要】 『木簡画像データベース』と『電子くずし字典データベース』を連携することにより、奈良文化財研究所が蓄積する木簡の字形・字体と、東大史料編纂所が集める古文書・古記録の字形・字体を、一度に探ることが可能となった。 各部・室の事業内容、研究発表等を紹介するための基本となるページを作成し、各部・室のページの作成を開始した。</p>			
<p>【実績値】 ホームページアクセス件数：1,030,905 件</p>			
<p>【備考】</p>			

自己点検評価調書

研究所 No 69

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	ホームページ アクセス件数					
判定	S					
備考 前中期計画中の平均ホームページアクセス件数：368,000件						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページによる記者発表・現場説明会の案内等の多角的な情報発信は前中期の平均アクセス数を大きく上回っているので充分に行なえたと言えるが、次年度はより充実した内容と見易いページを作成することによってアクセス件数の上昇を図りたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	他機関とのデータベース連携を行うなどの先進的な情報提供を行うことにより、有意義で画期的な情報の提供ができたと考えられる。この実績から今年度の中期計画の実施状況は順調と判断した。

業務実績書

研究所 No 70

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	黒田記念館における作品の展示公開((3))		
【事業概要】			
<p>当研究所は、黒田清輝の芸術を顕彰するために黒田記念館における作品や資料の展示に協力するとともに、研究成果を積極的に公開する。また、地方文化の振興に資するために、共催展「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝」を企画し、運営する。</p>			
【担当部課】		企画情報部	【プロジェクト責任者】 近・現代視覚芸術研究室長 山梨絵美子
【スタッフ】			
田中 淳、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞(以上、企画情報部)			
【主な成果】			
<p>一般公開入場者 20,345 人 「赤外線的眼で見る《昔語り》」(黒田記念館二階展示室、10.2.25-7.10) 「近代洋画の巨匠 黒田清輝展」(島根県立石見美術館、09.7.18-8.31)入場者 15,180 人</p>			
【年度実績概要】			
<p>①一般公開(無料)への協力：毎週木・土曜日 午後1時～4時、特別公開：2009(平成21)年11月3日～11月8日、入場者数 20,345人(2009年4月2日～2010年3月27日) なお、黒田記念室のパンフレット(A4サイズ、三つ折)を来館者に無料で配布した。 また、記念館2階の展示室を会場に、「特集展示 赤外線的眼で見る《昔語り》」と題して、黒田清輝筆《昔語り下絵》10点とその調査成果である近赤外線画像を展示公開し、画家の制作の過程を示し、同展示のパンフレット(A3サイズ、二つ折)を無料配布した。(会期：2010年2月25日～7月10日)。</p> <p>②2010年1月21日から2月20日まで、来館者にアンケートを実施した。1820人の来館者に対して、479人から回答を得た(来館者数の26.3%)。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」473人(98.7%)、「不満が残った」2人(0.4%)、その他であり、アンケート回答の98.7%が満足感を得たことになる。</p> <p>③平成21年度地方共催展は下記のように開催した。 会場：島根県立石見美術館、会期：2008(平成21)年7月18日(土)～8月31日(月) 主催：東京国立博物館、東京文化財研究所、島根県立石見美術館、中国新聞社 開催日数：42日、入場者：15,180人、陳列点数：油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡4通、日記5冊、参考出品2点、記録写真16点(以上、黒田記念館所蔵作品) 図録：A4版変形、182ページ 会期中の2009(平成21)年8月1日(日)、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、253人から回答を得た(入館者数358人に対して、回収率70.7%)。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。</p>			
【実績値】			
<p>入場者数 20,345人 入場者の満足度：98.7%(アンケート回収率26.3%) 共催展：島根県立石見美術館 入場者 15,180人 入場者の満足度：100%(アンケート回収率70.7%) 特集展示パンフレット(①)</p>			
【備考】			
①特集展示 赤外線的眼で見る《昔語り》パンフレット			

自己点検評価調書

研究所 No 70

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	黒田記念館 入館者数	同記念館 入館者満足度	共催展 入場者数	同入場者 満足度	
判定	S	A	A	A	
備考					

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	黒田記念館の公開への協力、共催展開催、および黒田記念館における研究成果展示、ともに順調に行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に従って事業を進めることができた。今後も、建物と作品および調査研究が一体化した展示公開を目指していきたい。黒田記念館での展示を条件に東京国立博物館に今年度寄贈された作品の展示公開を次年度から行う予定である。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	平城宮跡資料館における展示公開(Ⅰ6(5)「平城遷都 1300 年記念事業」と一体で実施) (3))		
【事業概要】 平城宮跡資料館において、常設展・企画展を実施する。			
【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 肥塚隆保
【スタッフ】 杉山 洋、渡邊淳子 [企画調整部]、桑原隆佳 [管理部]			
【主な成果】 平城宮跡資料館の改修工事に伴う閉館のため、本庁舎にガイダンスコーナーを設置した。常設展・企画展を実施し、調査研究の成果公開や情報発信に努めた。特に特別企画展「地下の正倉院展」は好評を博した。			
【年度実績概要】 ガイダンスコーナーにおける展示： 平城宮跡資料館は、2010 年 4 月のリニューアルオープンのため、2009 年 6 月より閉館し改修工事を行っている。そこで資料館閉館中における研究成果の公開や情報発信のため、2009 年 8 月 3 日より本庁舎入口にガイダンスコーナーを設置し、下記の常設展を実施するとともに、企画展を開催した。			
<常設展>			
○発掘調査速報…現地説明会が終了した平城宮第一次大極殿院中庭広場(454 次調査)の概要を展示パネル・写真で報告した。調査で出土した遺物も展示公開した。			
○国際学術交流…海外の研究機関との共同研究や、研究所で取組んでいる文化遺産修復事業をパネル・映像で紹介した。 中国：社会科学院考古研究所・遼寧省文物考古研究所・河南省文物考古研究所との共同研究 韓国：国立文化財研究所との共同研究 カンボジア：APSARA とのアンコール遺跡群西トップ寺院の共同研究 西アジア諸国：東京文化財研究所とのアフガニスタン・イラクの文化遺産保存修復事業			
○情報コーナー…コンピューターを設置し、奈良文化財研究所のホームページや平城宮情報検索システム「デジタル平城宮探索」を閲覧できるようにした。また研究所の刊行物・パンフレット等を設置し、研究所の研究成果や講演会・特別展の案内などを広報した。			
<企画展>			
○特別企画展「地下の正倉院展—二条大路木簡の世界—」 (2009. 10. 20～11. 29)			
1988 年に出土した平城京二条大路濠状遺構の木簡約 80 点を展示した。			
アンケート： 特別企画展「地下の正倉院展—二条大路木簡の世界—」の期間、入館者に対するアンケート調査を行った。 アンケート実施期間 2009 年 10 月 20 日～11 月 29 日 入館者数：3,353 名 回収数：224 名 回収率：6.68% 満足度(普通以上)：217 名 96.9% たいへんよかった 98 名 よかった 101 名 まあまあよかった 18 名			
			
地下の正倉院展 展示風景			
【実績値】 平城宮跡資料館の公開日数：53 日、入館者数：25,127 名 ガイダンスコーナー常設展の公開日数：152 日 特別企画展の公開日数：41 日、入館者数：3,353 名、入館者の満足度：96.9%、ギャラリートーク：3 回 展示品貸し出し件数：14 件			
【備考】 展示に因んでカタログを作成した。 特別企画展『地下の正倉院展—二条大路木簡の世界』2009. 10			

自己点検評価調書

研究所 No 71

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	入館者数	入館者の満足度				
判定	C	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮跡資料館の閉館のための対応策として本庁舎に展示・公開スペースを確保したこと、またその展示内容や特別企画展の実施などの順調な開催を評価し、Aと判定した。次年度は、平城宮跡資料館のリニューアルオープンを予定しており、展示の一層の充実にむけて努力したい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	新たに設置した本庁舎ガイダンスコーナーを利用し、平城宮跡資料館閉館中の展示公開・情報発信を行うことができた。このコーナーで昨年度に引き続き特別企画展として、通常は資料保存のため展示をひかえている木簡現物を制限付きながら公開でき、観覧者から好評を博したことも特筆される。 次年度には平城宮跡資料館の改装及び展示のリニューアルオープンを予定しており、資料館が平城宮跡のガイダンス施設としてわかりやすい展示・公開の場となるよう努力したい。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	飛鳥資料館における展示公開 (3)		
<p>【事業概要】 飛鳥資料館において特別展を春秋の2回開催するとともに、企画展を開催する。春期特別展では、キトラ古墳壁画の特別公開をあわせておこなう。平常展示では、第1、第2展示室の展示の維持管理をおこなうとともに、展示の手直しを適宜おこなった。</p>			
【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長 加藤真二
<p>【スタッフ】 成田聖、丹羽崇史(以上、飛鳥資料館)</p>			
<p>【主な成果】 春期特別展「キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－」を4月17日から6月21日まで開催するとともに、期間中の5月8日から5月24日までキトラ古墳壁画の特別公開をおこない、青龍図と白虎図を展示した。夏期企画展は8月1日から8月30日に「甦るクメール文明－世界文化遺産アンコール遺跡群－」を開催、期間中の8月2日に講演会、8月1日、8月2日、8月14日、8月15日にギャラリートークをそれぞれおこなった。秋期特別展は、10月16日から11月29日に「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」をおこない、10月17日に日中特別講演会「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」をおこなった。冬期企画展は、1月22日から2月28日に「飛鳥の考古学2009」を開催した。</p>			
<p>【年度実績概要】 春期特別展「キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－」(4月17日－6月21日) キトラ古墳青龍を推定復元するとともに、図を河北省湾漳壁画墓青龍図模写、山東省済南市解放橋南唐墓石棺拓本、大阪府池上曾根遺跡出土絵画土器などを展示し、東アジアにおける青龍と白虎の展開について展示した。期間中、キトラ古墳壁画特別公開(5月8日－5月24日)を行い、青龍図、白虎図を展示した。また、文化庁記念講演会(5月16日)の開催に協力した。 夏期企画展「甦るクメール文明」(8月1日－8月30日) 写真家BAKU 斉藤が撮影したカンボジアの写真作品を展示し、奈文研が共同研究を行っているカンボジア王国の魅力と実情を紹介した。期間中、8月2日に講演会(「甦るクメール文明」(講師：今川幸雄 元駐カンボジア日本国特命全権大使、岩崎好規 (財)地域地盤環境研究所常務理事、BAKU 斉藤 写真家)、ギャラリートーク(8月1日、8月2日、8月14日、8月15日)をおこなった。 秋期特別展「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」(10月16日から11月29日) 奈文研が行った遼寧省文物考古研究所との共同研究の成果を紹介すべく、遼寧省文物考古研究所、遼寧省博物館、朝陽市博物館から借用した三燕文物40点とともに、和歌山市立博物館所蔵の重要文化財大谷古墳出土の馬冑、馬甲、加古川市教育委員会所蔵行者塚古墳出土帯金具などを展示した。10月17日には日中特別講演会「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」(講師：田立坤 遼寧省文物考古研究所長、町田章 前・奈良文化財研究所長)をおこなった。 冬期企画展「飛鳥の考古学2009」(1月22日－2月28日) 平成20年度に、飛鳥地域でおこなった奈文研、明日香村教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所の発掘調査のうち、興味深い成果が得られたものについて展示した。石神遺跡、檜前遺跡群、飛鳥京跡、高松塚古墳の発掘などを取り上げた。</p>			
			
<p>秋期特別展参観風景</p>			
<p>【実績値】 刊行図書：3冊 講演会：2回、ギャラリートーク4回 年間入館者数：77,347人</p>			
<p>【備考】 春期特別展図録『キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－』 秋期特別展図録『北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－』 冬期企画展カタログ『飛鳥の考古学2009』 夏期企画展 特別講演会「甦るクメール文明」 秋期特別展 日中特別講演会「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」</p>			

自己点検評価調書

研究所 No 72

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	正確性			
判定	A	A	A			
<p>備考</p> <p>キトラ古墳壁画の取り外し作業の進行のなかで行っており、キトラ古墳壁画の修復作業について国民の理解を得るのにまさに、適時で不可欠な展示となっている。また、春期、夏期、秋期の各展覧会は強い国際性を有し、特に秋期特別展では、日本ばかりでなく、中国、韓国、欧米から多数の研究者が来館された。これらの展示は、奈良文化財研究所の付設機関、そして、飛鳥地域にあるという本資料館の特性と発想が生んだ独創的なものである。さらに、専門職員あるいは文化庁の指導をも受けたもので正確性も十分に確保している。</p>						

2. 定量的評価

観点	図書刊行数	発表件数	入館者数			
判定	A	A	A			
<p>備考</p> <p>特別展図録：3冊 講演会：2回、ギャラリートーク4回 年間入場者数：77,347名(目標：55,400名)</p>						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展覧会を年間4回開催し、展示図録等も計画通り刊行することができた。講演会も2回開催した。今回の展覧会のうち、秋期特別展の展示、図録、講演会は、特に好評で、内外からの反響も大きかった。定量的にも、年間入場者数は、目標値を大きく上回っている。このため、総合的評価をAと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の予定どおり遂行でき、所定の成果もあげたことから、順調と判定した。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	藤原宮跡資料室における展示公開 ((3))		
<p>【事業概要】 都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)に併設された藤原宮跡資料室およびエントランスにおいて、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実を図る。</p>			
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長 深澤芳樹
<p>【スタッフ】 玉田芳英、次山 淳、降幡順子、豊島直博、山本 崇、廣瀬 覚、青木 敬、木村 理恵、小田裕樹、若杉智宏、高田貫太、庄田慎矢、石田由紀子、加藤雅士、黒坂貴裕、番 光、高橋知奈津 [以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]、井上直夫、岡田 愛 [以上、企画調整部]</p>			
<p>【主な成果】 藤原宮跡資料室において、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するために、速報展示コーナーを設け、継続して、多様な調査成果を公開した。あわせて、展示のための資料制作、各地の博物館などへの出陳も行った。</p>			
<p>【年度実績概要】 都城発掘調査部飛鳥・藤原地区庁舎に併設された藤原宮跡資料室において、通年にわたり常設展示を実施した。また、申請のあった団体などへは展示説明、藤原宮跡、発掘調査現場の案内などの対応をした。 エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するための速報コーナーを設け、甘樫丘東麓遺跡(158次)、桧隈寺周辺で確認されたL字形竈付堅穴建物(159次)、藤原宮大極殿院南面東回廊(160次)、の速報展示を実施した。 また、今年度は調査速報展示の合間をぬって、2009年11月24日から2009年12月7日まで、保存処理前で水漬の状態にある藤原京跡出土木簡20点を展示し、さらに、保存処理の終了した藤原宮大極殿院南門基壇版築の土層剥ぎ取り資料の展示を実施した。 そして、地方公共団体の博物館などの求めに応じ、各種展示会への保管遺物ならびに模型・模造品等の出陳、保管遺物のレプリカ作製を行った。</p>			
			
<p>木簡の展示風景</p>			
<p>【実績値】 平成21年度の入室者数4,341名(2010年3月31日現在)、開室日240日(2010年3月31日現在)、各種団体等への展示説明8件、遺物等の貸し出し等件数12件、レプリカ作成依頼2件</p>			
<p>【備考】 藤原京跡出土木簡の展示に因んで無償配布の解説シートを作成配布した。 奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室「木簡から古代人を垣間見る―藤原京衛門府関係木簡の展示―」2009.11</p>			

自己点検評価調書

研究所 No 73

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
<p>備考</p> <p>適時性：発掘調査・研究成果の速やかな公開 独創性：展示公開のための出土遺物・遺構の保存修復作業、水漬け木簡の展示 発展性：速報展示における展示方法、内容の工夫(各遺跡の特徴に的を絞った展示) 継続性：常設展示、及び速報展示の恒常化</p>						

2. 定量的評価

観点	入室者数					
判定	B					
<p>備考</p> <p>年間入室者数：4,341名(目標：4,500名)</p>						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	常設展示とともに、エントランスでの速報展示コーナーの内容が一層充実し、調査成果の速報性がより高まった。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	速報展示等も充実した内容のもとに継続的に実施されており、順調と判断した。

業務実績書

研究所 No. 74

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティア事業の運営((4))		
<p>【事業概要】 平城宮跡の来訪者に平城宮跡解説ボランティアが、平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説を行うことにより、研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化遺産に対する理解を深めてもらう。 年間約 45,000 人に解説事業(目標)を行い、解説ボランティアについては、継続的に約 100 名確保(目標)し、研修、学習会の実施や解説資料の配付等の積極的な活動支援を行う。</p>			
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石憲良
<p>【スタッフ】 渡邊淳子 [企画調整部]、永井あつ子、桑原隆佳 [以上、管理部]</p>			
<p>【主な成果】 ボランティア解説者の学習等による案内解説は、熟達した高度な文化解説から十分な成果が認められる。</p>			
<p>【年度実績概要】 平成 21 年度は平城宮跡を訪れた約 8 万人に案内・解説を行った。平城宮跡は小・中学校の校外学習の場としても活用され、その説明は解説ボランティアに依頼されることが多く、学校関係者等から高い評価を得ている。 この事業は、10 年を超え定着してきているが、平城遷都 1300 年記念事業に向けて更に充実させるため、解説のための専門研修(14 日間)、「続日本紀」読書会(毎月 1 回)等を実施し、解説資料の配付を行うなど積極的に支援した。</p>			
<p>【実績値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説ボランティア：128 名 ・ボランティア解説延べ人数：80,794 人 ・各種ボランティアに対する学習会等 <ul style="list-style-type: none"> 専門研修 14 日間/年 『続日本紀』読書会 1 日間/月 			
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 74

1. 定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考 継続性：ボランティア解説者の学習等により基礎的知識は十分な成果を認める。 効率性：ボランティア解説者の案内は十分に成果を認める。 発展性：ボランティア解説者の来訪者への影響は十分な成果を認める。 正確性：ボランティア解説事業の運営に十分な成果を認める。						

2. 定量的評価

観点	ボランティア登録者数	事業参加者数				
判定	A	A				
備考 ボランティア登録者数：100人 事業参加者数：45,000人						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ボランティア解説者の学習成果による、熟達した高度な文化解説の案内から、総合的に判断してAと認めたものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	解説ボランティア事業は、ボランティアの更なる研修、事業参加者数の増加、ボランティアへの積極的な支援も順調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ平城宮跡の公開活用に力を注ぎたい。

業務実績書

研究所 No. 75

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援((4))		
【事業概要】	<p>平城宮跡で活動しようとする各種ボランティア、また文化財関係のボランティアに対して要請があれば、平城宮跡(施設を含む)を活動の場所として提供することや、文化財に関する学習会等への講師の派遣を行う等の支援を行い、ボランティア団体の育成に寄与する</p>		
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石憲良
【スタッフ】	渡邊淳子 [企画調整部]、永井あつ子、桑原隆佳 [以上、管理部]		
【主な成果】	各種のボランティア団体への支援により、解説ボランティア事業の活性化に繋がった。		
【年度実績概要】	<p>平成13年11月に設立された「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、活動機会、場所、講師等の派遣等、積極的な活動支援を行った。具体的には、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、平城っ子歴史教室への講師派遣、平城京かるたの監修等の協力、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル、平城宮跡歴史文化講座を行った。それらは新聞等でも紹介され好評であった。</p> <p>また、「特定非営利活動法人なら・観光ボランティアガイドの会」から朱雀門、東院庭園でボランティア解説をしたいとの要請があり、活動場所の提供を行った。</p>		
【実績値】	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ボランティアに対する学習会、活動場所の提供等 <li style="padding-left: 20px;">専門研修 14日間/年 <li style="padding-left: 20px;">平城宮跡クリーンフェスティバル 1日間/年 <li style="padding-left: 20px;">清掃活動 11日間/年 <li style="padding-left: 20px;">平城宮跡歴史文化講座 3日間/年 <li style="padding-left: 20px;">万葉集勉強会 1日間/月 <li style="padding-left: 20px;">平城っ子歴史教室 1日間/月 		
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 75

1. 定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考 継続性：各種ボランティアへの支援には、十分な成果を認める。 適時性：各種ボランティアへの支援は、学習会の実施等十分な成果を認める。 効率性：各種ボランティアへの場所の提供要請等には、十分な成果を認める。						

2. 定量的評価

観点	ボランティア登録者数	事業参加者数				
判定	A	A				
備考 ボランティアに対する学習会実施回数：2回 参加者数：150人						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、平城っ子歴史教室への講師派遣への講師派遣、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル及び平城宮跡歴史文化講座への場所提供等、種々の支援を行い、活動の活性化に貢献した。これらを総合的に判断して、Aと認めたものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各種ボランティアの要請に対し、積極的に支援し、各事業が行われた。今後も各種ボランティア育成に寄与したい。

業務実績書

研究所 No. 76

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化庁が行う平城宮跡等の公開・活用事業への協力・支援((4))		
【事業概要】			
文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対する積極的協力を以下のとおり実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ○施設の公開・利用等に係る連絡調整及び連携協力 ○各種行事、発掘調査等の連絡調整 ○修繕等に係る相談、状況の把握、等 			
【担当部課】	管理部業務課、 管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	業務課長事務取扱 多 昭彦 文化財情報課長 平石 憲良
【スタッフ】			
今西康益、飯田信男、志野愛由美、三本松俊徳、永井あつ子、桑原隆佳、松本正典 [以上、管理部]			
【主な成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 ◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。 ◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務 <ul style="list-style-type: none"> 平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。 ○平城宮跡 [対象面積：915,150 m²] ○藤原宮跡 [対象面積：257,840 m²] 			
【年度実績概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○宮跡の公開・活用事業に対する協力・支援、利用申込み等に対する連絡及び申込者との打合せ ○各種行事、発掘調査等に係る連絡調整 ○宮跡内建物、工作物等の維持管理・修繕に当たり、状況の把握、文化庁・業者との連絡調整、現場監理等 <ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡内東院庭園池循環設備修理及び清掃等維持管理 ・国有地公有化範囲等国有財産の状況確認 ・平城宮跡内グレーチング、外灯等設備、兵部省式部省等遺構表示等工作物の修理及び維持管理 ○住民等からの苦情対応・取次ぎ及び周辺自治会等との協力 <ul style="list-style-type: none"> ・宮跡内水路、道路等の修理等環境改善及び維持管理等 ・蜂の巣駆除等、日常環境改善維持管理 ・宮跡来訪者・利用者等一般からの申し出(防火、防犯、植生、運営等)対応、文化庁への調整 ・地元自治会との協力対応、文化庁への調整 ○平城宮跡内禁止行為等への対応・異状報告 <ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡内火災対応及び救急車出動対応 ・禁止行為等看板設置に関する文化庁への協力 ・宮跡毀損事故、事件及び不法投棄等禁止行為への対応及び文化庁への調整 ○平城宮跡安全安心連絡協議会で平城宮跡みまもり隊を企画・構成、パトロールを実施 ○所轄消防署警察署との連絡調整 <ul style="list-style-type: none"> ・火災、盗難・強盗等事件捜査への協力、連絡調整 ◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○文化庁事業への支援・協力 <ul style="list-style-type: none"> ・東院庭園の名勝指定に関する資料提供等支援協力 ・大極殿正殿復原整備、遺構展示館改修、大極殿高御座製作、大極殿・遺構展示館内部展示、大極殿小壁彩色製作の計画・設計・整備等推進への等文化庁事業への支援・協力 ・大極殿小壁彩色制作の実行調整及び現場制作管理 ・高松塚古墳仮整備、山田寺跡復旧整備事業の計画・設計・整備推進等、文化庁事業への支援・協力 ・平城宮跡の国営公園化に関する事業の計画・設計・整備推進等、国土交通省への支援・協力及び文化庁との調整 ・平城遷都 1300 年記念事業実施に関する文化庁との調整 ○関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務 <ul style="list-style-type: none"> ○平城藤原宮跡の維持管理のために宮跡地内の草刈植栽業務等及び宮跡地内における不具合対応策提案を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡 草刈り等(芝、雑草、草花類) 実施時期：4～11月 作業回数：1～8回 植栽等(表示、景観樹木類) 実施時期：12～3月 作業回数：1～8回 その他 側溝等工作物清掃維持、害虫駆除 ・藤原宮跡 草刈り等(芝、雑草、草花類) 実施時期：4～11月 作業回数：1～2回 植栽等(表示、景観樹木類) 実施時期：12～3月 作業回数：1回 その他 耕作用水路等隣接部清掃維持、側溝等工作物清掃維持、害虫駆除 			
【実績値】			
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 76

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
<p>備考</p> <p>適時性：緊急性の高い連絡・修繕相談等へ適時に対応 独創性：宮跡内建物、工作物等の維持管理に寄与 発展性：専門知識を生かした協力による人的投資上の効率性 継続性：需要に応じた継続的な連携協力体制</p>						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>平城宮跡・藤原宮跡等の公開・活用に必要な準備等に積極的に協力し、また、平城宮跡等において発生する緊急性の高い連絡等に、良く対応している。</p> <p>さらに、平城宮跡国営公園化や平城遷都 1300 年祭記念事業の実施に伴う専門的支援を行っており、これら事業の推進に伴う文化庁等からの相談等に良く対応している。</p> <p>これら実績から、Aとしたものである。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	<p>施設の公開・利用等の連絡、各種行事・工事・発掘調査の連絡、修繕相談・状況の把握等、各業務について積極的に協力できた。</p> <p>特に、事故・事件、火災、修繕相談等は、緊急性の高い場合が多かったが、適時・的確に対応できた。</p> <p>なお、今後、平城宮跡国営公園化や平城遷都 1300 年祭記念事業の実施に伴い、平城宮跡等の管理の協力・支援のあり方について検討する。</p>

中項目	6 情報発信機能の強化
-----	-------------

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ①ウェブサイト等による情報の発信							
担当者	担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長 高橋裕次				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・情報アーカイブサイトでの調査研究成果の公開を継続した。 ・列品管理プロトタイプデータベースを更新し、列品情報の公開を行うためのデータ整備を推進した。 ・モノクロフィルムの画像データベースについて、館内業務および資料館において公開しているメタデータを追加した。 ・古文書の画像データベースを公開した（予定）。 ・国指定文化財の高精細画像および解説文（e 国宝）について作業を進め、一般公開のための管理システム等の開発を行った。 ・携帯電話サイトによる情報提供サービスの実施について引き続き検討を行い、次年度の開設を目標として準備を進めた。 							
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京国立博物館情報アーカイブ・ウェブサイト」を運用し、研究員の調査研究成果の一部と科学研究費による成果の公開を継続した。 ・ウェブサイトにおける画像検索機能の改善について試験的なプログラムを作成して検討した。 ・将来的な収蔵品情報の外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」の構築を進め、列品の修理に関する情報を検索、取得できる機能の実装を進めた。 ・科学研究費の成果である古文書の画像データベースを公開した。 							
								
	情報アーカイブ・ウェブサイト							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21
	ウェブサイトへのアクセス件数	5,687,673件	1,928,966件	S	3,680,028	5,504,468	5,211,261	5,687,673
	検索対象画像の拡充	約164,177点	—	—	約26,000点	約50,000点	約51,000点	約164,177点
年度実績評価総括	(S) A B C F (S、Fの理由) インターネットの急速な普及と当館ウェブサイトの充実等により、ここ数年、アクセス件数が目標値を大きく上回り、当館からの情報発信に多大な役割を果たしている。							
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることにする。							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

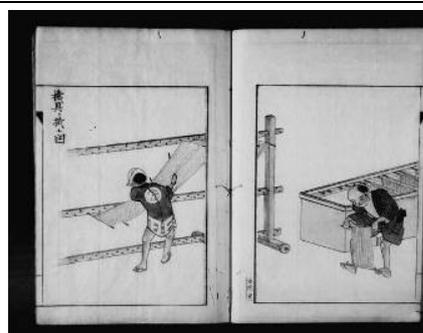
中項目 6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ①ウェブサイト等による情報の発信								
担当者	担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 大西真一 列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・トップページリニューアルを行い、館藏品の高精細画像検索をより利用しやすい状況に置くなど、利用者の拡大とサービスの向上に努めた。 ・館外での作品公開一覧ページを作成し、館外で見られる当館収蔵作品の情報を発信した。 ・管理サーバの導入により、定義ファイルの自動更新、ウイルスチェック及びセキュリティ強化を実施した。 ・学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開した。 ・既刊の博物館ディクショナリーについて、処理が完成したものからウェブサイトに掲載するとともに、21年度刊行分についてメールマガジンで配信した。 ・パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイト内の特別展覧会、各種講座・イベント等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報が提供に努めた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>トップページリニューアル</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>館外での作品公開一覧</p> </div> </div>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・従来複数の段階を経ないととどり着けなかった、当館の基本的な利用情報（観覧時間・観覧料、交通アクセスなど）をトップページにまとめ、利用者が必要な情報を分かり易く表示した。 ・ウイルス対策システムのリプレースを実施し、継続的な情報資源に対するセキュリティ強化を図った。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	ウェブサイトへのアクセス件数	848,486件	521,965件	S	757,812	733,885	1,409,634	848,486	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることをとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ①ウェブサイト等による情報の発信								
担当者	担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	情報サービス室研究員 野尻 忠					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・PC用ホームページに、新たな機能として「収蔵品データベース」を掲載した(10月)。これにより情報発信機能が強化されたので、今後は収録データの追加・充実に向けて努めていく。 ・広報誌「奈良国立博物館だより」(年4回発行)に、研究員による調査研究成果の発表の欄を設け、すべての号に記事を掲載した。 ・研究紀要『鹿園雑集』11号を刊行し、論文3本、資料紹介1本、調査報告2本を掲載した。 								
補足事項	<div style="text-align: right;">  </div> <p>『奈良国立博物館だより』72号(平成21年12月発行)に、収蔵品DB作成の経緯とその意義に関する報告を掲載した</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	ウェブサイトアクセス件数	2,630,035件	670,948件	S		1,249,608	1,402,834	1,230,774	2,630,035
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目		6 情報発信機能の強化							
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ①ウェブサイト等による情報の発信								
担当者	担当部課	総務課 広報課	事業責任者	総務課長 樋口理央 広報課長 不動勝義					
実績・成果	<p>① 九州国立博物館ホームページの年間スケジュールリニューアル及び情報公開頻度増加 ② ホームページ利用者からの意見を、ホームページ内の九博メールで対応 ③ 特別展ごとに「ブログるぼ」の実施 ④ 「九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内」チラシの作成及びホームページ掲載</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ホームページの年間スケジュール</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内」チラシ</p> </div> </div>								
補足事項	<p>① 当館ホームページを見に来られる方に対して、更なる情報提供として文化交流展で開催しているトピック展の情報を随時公開している。また、開館日とあわせて当館で開催している特別展や文化交流展などの展示期間がひと目で分かるよう、年間スケジュールのページリニューアルを行った。これにより、ページ滞在時間の短縮、各トピック展への移行数の増加が見られた。また、迅速な情報提供も可能な限り即時対応に努めている。</p> <p>② 利用者からの質問、意見等については、適切に九博メールでの回答を行っている。</p> <p>③ 「ブログるぼ」は、WEB上でブログ執筆希望者を募集し、実際に特別展を観覧した方に、撮影禁止の館内画像等を提供して、ブログを書いてもらう仕組みとなっている。これは、ネット社会へ柔軟に対応した先駆的事例であり、特別展の広報活動の一環でもある。</p> <p>④ これまで月ごとの特別展及びトピック展示等の展示情報とイベント情報を集約した紙媒体がなかったため、2ヶ月分の情報を掲載した情報ツールとして、来館者や太宰府市内の施設等に配布している。また、ホームページに掲載し、閲覧できるようにしている。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	ホームページアクセス件数	7,459,518件	783,487件	S		7,118,540	5,943,616	5,699,860	7,459,518
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることをとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目		6 情報発信機能の強化							
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-1 デジタル化の推進								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長 高橋裕次					
実績・成果	1) 収蔵品等のモノクロ画像のデジタル化を継続し、主要な既存フィルムのデジタル化をほぼ完了した。 2) マイクロフィルムは目標を大幅に上回るデジタル化を行い、ほぼデジタル化を完了した。 3) 国指定文化財のデジタル撮影を集中的に実施し、既存の画像データについては編集・加工を行なった。また国指定文化財の情報と解説文を整備し、公開にむけて英、仏、中、韓の各国語に翻訳した。 4) 法隆寺献納宝物のデジタルアーカイブの提供を継続した。								
補足事項	1) 収蔵品等の写真の高精細デジタル化 <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵品等の 4×5 カラーフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・所蔵品等の 4×5 モノクロフィルムの高精細デジタル化を実施し、ほぼ遡及を完了した。 ・18年度から撮影を開始した所蔵品等のマイクロフィルムの高精細デジタル化を実施し、ほぼ完了した。 ・カラーのデジタルデータについては、来館者をはじめとする幅広い利用者の求めに応じて、利用に供した。 ・マイクロフィルムについては、インターネットを通じた情報提供ができる環境構築の準備を進めた。 2) 国指定文化財の新規撮影・高精細デジタル画像化 <ul style="list-style-type: none"> ・国指定文化財のデジタル撮影を集中的に実施し、約 10,000 カットの画像を作成した。また既存の画像データ約 8,200 枚を公開にむけて編集・加工した。 3) 収蔵品の基本情報のデータ化 <ul style="list-style-type: none"> ・モノクロフィルムの被写体データの調査を継続した。 4) 法隆寺献納宝物のデジタル高精細画像等の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画のとおり法隆寺献納宝物デジタルアーカイブの提供を継続した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	デジタルデータ作成件数	775,300 件	73,000 件 (18,829 件)	S —		4,472	153,000	139,000	775,300
	うち4×5フィルム(カラー)	3,480 件	3,000 件	A					
	うちマイクロフィルム	23,639 件	10,000 件	S					
	うちマイクロフィルム 収蔵品の基本情報のデータ化	748,181 件 123 万字	60,000 件 30 万字	S S		50 万	30 万	55 万 3 千	123 万
年度実績 評価総括	㊟ A B C F (S、Fの理由) 本年度は、補正予算が当該事業について執行されたため、処理件数の数値が飛躍的に大きくなった。ただし、これは本年度限りの特殊事情である。								
中期計画 記載事項	収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すため、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



マイクロフィルムデジタル化
 (《諸国製造品》)

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-1 デジタル化の推進								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	大西真一				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を随時行っている。 ・重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」で公開されている作品のほぼ全てについて、6カ国語（日英韓中仏西）による解説を加えた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>公開収蔵品データベース</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」</p> </div> </div>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム（館内研究・管理用）及び公開収蔵品データベース（一般公開）に随時登録し、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行う。 ・当館所蔵指定文化財の画像のほぼ全てを高精細画像化し、ウェブサイト上で公開しているKNM GALLERYを、利用者に使い易いようトップページからのアクセスを容易にした。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	デジタルデータ作成件数	5,603件	4,359件	A		6,169	8,047	6,478	5,603
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すため、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目 6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-1 デジタル化の推進								
担当者	担当部課	学芸部資料室	事業責任者	資料室長 宮崎幹子					
実績・成果	<p>本事業は、仏教美術を中心とする文化財に関わる情報の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなうことを目的としている。このことを実施するために必要な情報システムの構築、ネットワークの整備もあわせておこなう。</p> <p>データベース：</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査および写真撮影をおこなった文化財について、情報システムへデータを入力し、7,878件登録・更新した。 上記のうち公開準備のできたデータを写真データベースから3,995件公開した。 以前より作業を進めてきた収蔵品データベースの構築が一旦完了し、正式公開をおこなった。これにともない、整備をおこなっていた収蔵品のデータ4,461件から、公開準備のできたものを1,830件公開した。 <p>画像データ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の補正予算により、館蔵品を中心にカラーポジフィルム6,181枚、X線フィルム2,928枚をデジタル化した。 同じく補正予算により、当館で保管する日本美術院彫刻等修理記録のデジタル化をおこない、紙媒体資料のデジタル撮影を75,305カット、ガラス乾板のデジタル化を6,141枚実施した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、文化財情報の整備と写真原板の整理を重点的におこない、登録・公開データを大きく増加させることができた。 収蔵品データベースについても、引き続き情報の整備に努める予定である。 写真原板、X線写真、ガラス乾板、修理記録類のデジタル画像化を順次推進しており、整理を進める予定である。 デジタル化件数は、データベースの登録データと画像データの合計としている。 今年度は補正予算が得られたため、デジタル化の総件数が大幅に増加した。 <div style="text-align: right;">  <p>収蔵品データベース</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	登録データ	12,339件	2,000件	S		3,838	3,889	6,989	12,339
	公開データ	5,825件	—	—	2,058	2,017	4,019	5,825	
	デジタル化件数	102,894件	8,471件	S	3,830	4,584	8,399	102,894	
年度実績評価総括	<p>Ⓢ A B C F (S、Fの理由)</p> <p>今年度は補正予算が得られたため、デジタル化の総件数が大幅に増加した。</p>								
中期計画記載事項	<p>収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-1 デジタル化の推進								
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料管理室長 小林 公治					
実績・成果	収蔵品のデジタルデータを作成した。(3,574件)								
補足事項	<p>新たに撮影し収蔵品・出品作品をデジタル撮影した。また、フィルム撮影の写真についても順次3種類のデジタルデータ(300KB、2MB、120MB)に変換した。</p> <p>国立文化財機構が作成している「e国宝」に当館情報を提供した。</p> <p>当館独自の所蔵重要文化財公開用のデジタル・アーカイブを製作し、ウェブ、館内で公開した。</p>			 <p>(新規撮影作品) 重要文化財 菊蒔絵手箱(当館保管)</p>					
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	デジタルデータ作成件数	3,574件	1,890件	S		2,898	3,295	3,963	3,574
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等を活用してより広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、当該期間の平均数が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						

中項目 6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-2 情報・資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実								
担当者	担当部課	事業部情報課	事業責任者	博物館情報課長 高橋裕次					
実績・成果	<p>〈収集〉 購入図書 480 冊、寄贈・交換図書 2,931 冊、館藏品等の写真資料 4,177 枚 〈整理〉 新規整理 図書 3,411 冊、逐次刊行物 3,790 冊、遡及入力 図書 11,105 冊 〈資料整備〉 雑誌等の製本 346 冊 〈公開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 閲覧室のスペースの有効活用を目的として、写真キャビネットを西側に、閲覧机や書架を中央部分に移動した。また、新規に書架を 16 台増設した。 ・ 視聴覚コーナーにおいて、ビデオ・DVD 等約 60 点を追加して公開した。 ・ OPAC で図書 164,564 冊、雑誌 6,103 タイトル、目次・論文データ 5,982 件を公開した。 ・ 図書資料の展示コーナーを新設し、所蔵資料の紹介を定期的に行った。 ・ 法隆寺宝物館の図書コーナーを継続実施した。 ・ 学芸業務支援システムについて、修理情報関連機能の構築を進めた。 								
補足事項	<p>〈収集〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館の調査研究や事業・運営に有用な図書を購入、交換・寄贈等により収集した。また、館藏品を中心に撮影した写真資料を整備した。 <p>〈整理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存図書の図書館システムへの遡及入力を継続して行い、漢籍 8,317 冊、洋書 696 冊、戦前の展覧会カタログ 1,359 冊、複製本 335 冊、一般図書 398 冊のデータを入力。 <p>〈資料整備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦前の美術雑誌等、劣化の進行している雑誌について、保存修復課と今後の対策について検討を行った。 <p>〈公開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立情報学研究所の目録所在情報サービス (NACSIS-CAT) に図書の所蔵登録を行い、また美術館図書室横断検索にも継続して参加して、当館蔵書への検索サービスの向上に努めた。 ・ 東京国立博物館刊行「Museum」・「紀要」、戦後当館が開催した展覧会カタログについて、すべての目次・論文データを入力し、OPAC からの検索を可能とした。 ・ 明治朝創刊美術雑誌の初号と「売立目録」の表紙画像を OPAC で公開した。 ・ OPAC で、新着図書の案内等のライブラリーニュースを随時発信した。 			 <p>窓側の新設書架と中央の閲覧机</p>					
	 <p>売立目録の検索結果 (OPAC)</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	収藏品等の写真撮影・関連データ整備	4,177 件	3,000 件	A		4,472	3,642	4,703	4,177
	新規図書整理	3,411 件	—	—		1,118	4,013	7,781	3,411
	遡及図書整理	11,105 件	—	—		—	4,574	5,709	11,105
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	6 情報発信機能の強化
-----	-------------

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-2 情報・資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品、展覧会出品作品等の撮影写真、及び社寺調査等での撮影写真並びに関連データを整備した。 ・写真は漸次写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。 登録件数 3,753件 ・特別観覧件数 1,002件 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、特別展関係の撮影が例年より少なかったことで、原板登録枚数が減少した。 『日蓮と法華の名宝』 前年度に先行調査撮影した 『シルクロード』 所蔵者による撮影制限 『THEハプスブルク』 当館の資料収集対象外 ・「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net) を介したデジタル画像の提供事業を継続的にしている。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データの整備	3,753件	約5,000件	B		5,910	4,256	6,478	3,753
年度実績 評価総括	S A B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	6 情報発信機能の強化
-----	-------------

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-2 情報・資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長 宮崎幹子					
実績・成果	<p>本事業は、博物館の根幹である展示・研究活動を支援すべく、関連する図書・雑誌等の資料を収集・整理し、学芸部の情報資料として活用するものである。また一般利用者に対しても当該資料を当館仏教美術資料研究センターにおいて公開し、サービスをおこなっている。</p> <p>今年度後半は同センター耐震補強工事の開始にともない10月以降は閉館とし、旧地下通路に新たに確保した収蔵スペースに全資料の移動をおこなったため、資料は館内利用にとどめている。資料の移動・整理およびその準備作業に人員と時間を要したため、現在までの図書の新規受入は、1,129冊、展覧会カタログは248冊となっている。1月には作業が完了したため、その後は通常業務を鋭意進めているところである。</p> <p>また、この間に図書情報システムのリプレースを実施し、業務の効率化とサービスの向上を図った。新システムへの移行作業は順調に進み、既に通常業務に活用しているが、来年度以降に図書情報のインターネットへの公開を目指しており、館内での情報蓄積が外部サービスの充実に効果的に反映されるよう、更なる情報整備に努めている。</p> <p>同センターの保有する資料の総数は図書約66,000冊、展覧会カタログ約10,000冊、雑誌約3,000タイトルとなっている。今年度は昨年度に引き続き、中国仏教関係の資料を重点的に収集し、不足していた領域の資料の充実を推進させることができた点も特筆される。</p>								
補足事項	<p>従前より仏教美術に関する資料の充実化をはかっているが、関連研究分野の拡張化や学際化が近年著しく、当館でも新たな分野の資料の強化・整備がさらに必要である。今後とも、仏教美術関係の資料収集はもとより、多様な資料の蓄積をはかると共に、効率のよい資料整理・公開の方法についても検討して行きたい。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>図書情報システム</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21	
	図書	1,129件	—	—	経年変化	1,930	2,280	1,520	1,129
	展覧会カタログ	248件	—	—		460	532	489	248
	収蔵品・出品作品等の写真撮影・関連データの整備	5,818件	3,000	S		8,406	3,240	6,457	5,818
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目		6 情報発信機能の強化							
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-2 情報・資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実								
担当者	担当部課	文化財課 交流課	事業責任者	資料管理室長 小林公治 主任研究員 池内一誠					
実績・成果	<p>①収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備した。(4,686件)</p> <p>②博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベース、対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。</p> <p>③ハンズオン資料の収集 特別展や館内イベントの開催等にあわせ、体験型展示室「あじっば」で使用するハンズオン資料の収集を継続して行った。</p> <p>④「あじっば」資料の情報の収集 福岡在住の各国留学生や海外からの招聘研究者等から、「あじっば」資料についての情報を収集し、展示に反映させた。</p>								
補足事項	<p>①収蔵品・出品作品などについて4,600件を超す写真を撮影し、写真データベースの充実を図った。</p> <p>②博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベースは、稼働中の業務システムにおいて効率的に運用している。購入・寄託や借用などにもなう新規の収蔵品や図書データは随時入力するとともに、既存データについても未記入項目の遡及入力を実施し充実を図っている。 対馬宗家文書データについて、年代調査の実施および翻刻の整備を行い、データベースの効率的な運用を図った。</p> <p>③については、ベトナム関係資料52件、チベット関係資料15件、タイ関係資料18件、インドネシア関係資料1件、日本関係資料75件(久留米絣関係35件、四季の風俗関係40件)中国関係資料65件、韓国関係資料104件、合計330件のハンズオン資料を収集し、随時展示に活用している。</p> <p>④については、韓国人留学生による情報収集1回、ベトナム人留学生による情報収集4回、タイからの招聘研究者による情報収集7回を行った。特にタイの研究者からの情報収集については、僧衣の着用方法、ならびに托鉢に際しての僧侶および供養者の作法等についてワークショップ形式でレクチャーを受けることができた。またタイの手作り玩具の制作方法についても、一般来館者を交えたワークショップ形式で実施することができ、「あじっば」における今後のプログラム・展示の充実に資するところ大であった。</p>								
	 <p>収蔵品写真撮影風景</p>		 <p>ベトナム螺鈿皿(新規収集)</p>			 <p>タイ研究者により托鉢時の作法指導</p>			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	収蔵品・出品作品等の写真撮影および関連データ整備件数(※デジタルデータ作成件数を含む)	4,686件	600件	S		3,479	12,556	6,633	4,686
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図ると共に、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								